

国

語

注意

1. 問題は全部で16ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ● | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり折り曲げたりしないこと。

— 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

一九八九年に「ベルリンの壁」が崩壊してから三〇年になろうとしている。この三〇年の間に、その時代を直接には知らない若い世代の人も増えているから、今やもう「歴史」の一コマとしておさまってしまった感もないわけではない。しかしながら、東西冷戦体制の解体という、世界史上の大きな画期をなす出来事であったことは間違いないし、それ以上に、とりわけベルリンという都市に関してみると、世界のどの都市も体験したことのないような大改造の嵐にさらされた、その未曾有¹の状況に、そこに住んでいた当人たちだけでなく世界中が興奮したのである。その衝撃は今なおおさまったとは言い難く、さまざまに形を変えつつ、都市の記憶として継承されていると言ったほうがよい。

東ドイツと西ドイツという、四〇年間全く違った体制でやってきた国がひとつになるということだけでも大変なことだが、西ベルリンが東ドイツの中に孤島のように、しかも壁に囲まれて存在しているという、きわめて特殊²な状況におかれていたベルリンという都市にとって、それが一つになるというのは、ほとんど天地がひっくり返るような出来事であったと言ってもよい。もちろん、両大戦間には首都として、また世界の文化を牽引⁴する都市の一つとして機能してきたベルリンである。敗戦によって分断されても、やがてまた一つになり、かつての栄華を取り戻すことが想定されていたには違ひなからうが、そうは言っても四〇年にわたって分断されている間にそれぞれが独自の形を作り上げ、それなりにできあがってしまったから、いまさらそれを統一することが大変な事業になることは当然のことである。鉄道網ひとつとっても、東西に分断され、それぞれに形を変えてしまっていた環状線がようやく元の形でひとつにつながったのは統合後十年以上がたった二〇〇二年のことであったし、ひとつのローカル駅になりさがっていた中央駅が再整備されて本来の機能を取り戻し、再開業にこぎつけたのは、何と二〇〇六年になってのことだった。すべてのごうい具合であり、この間、ベルリンの市内は「ベルリンのバス路線は毎日変わる」などとやゆされるほどの大工事の嵐が続くことになったのである。

³ そのような状況の象徴となったのがポツダム広場⁴である。ポツダム広場は戦前にはベルリンの中心的な繁華街の一つだった

が、ちょうど東西の境界線がこの付近にかかってしまったために、周辺一帯は「壁」にはさまれた荒涼とした空き地と化してしまっていたのである。東西合同を契機にこの地を再開発し、かつてのベルリンの栄華をとりもどす拠点にしようとしたという意味では、新造というよりは再興とみるべきかもしれないが、いずれにせよその結果、ついこの間まで荒涼たる無人の地だったポツダム広場に超高層ビルが立ち並び、世界屈指のシネマ・コンプレックスまで作られるにいたったのである。筆者が最初にベルリンを訪れた一九九八年は、このポツダム広場の再開発事業がまさに佳境に入っていた時期であり、こういう大規模工事が行われている現場を一目見ようという人々がドイツ全土から集まり、「工事場観光」などの名で呼ばれる動きが活発化していた。ドイツの地方都市はアメリカや日本などよりははるかに高層ビルが少ないので、そういうところから来た「おのほりさん」とつてみれば、まさにできあがりつつあるポツダム広場の光景は、目をまわすようなものだったに違いない。このポツダム広場の隣にある今のライプツィヒ広場にはベルリンの都市改造計画についての展示を行う「インフォボックス」という仮設の展示施設が一九九五年に設けられていたが、そこにはポツダム広場の建築現場を一望する有料の展望台まで作られていたのであった。

このような状況はほとんど、通常ではありえないような壮大な「実験」に等しいものであった。インフォボックスには、ポツダム広場だけではなく、ベルリン全域にわたる今後の改造計画に関わる地図や図面、模型などがいろいろ展示されていたが、大改造がすでに佳境に入り、かなり進んでいた九八年の時点においてすら、ほとんどが夢物語にみえてしまうほど、それまでの現実とかけ離れていた。そして、その三年後の二〇〇一年に訪れた時には、その多くが着々と現実のものになっていることに、また驚いたものである。

もちろん似たようなことはどんな都市にもあるだろうが、普通はある一角の再開発くらいがせいぜいであるのに対し、ベルリンの場合には、普通だったら一〇〇年かかって行われるようなことがごく短期間に集中して起こってしまい、ほとんど早回しの映画を見るような感覚で物事が進んでいった。加えてそこに、東と西との関係の問題がからんでいる。また第二次大戦時の空襲の際の弾痕まで残っていたような旧「東」地域の古い街並みの中に「西」資本の大規模なショッピングモールが突然姿を現したりするといった、日常的な想像力をこえるような出来事がほとんど毎日のように起こる、そんな状況が続いたのであるから、ほとん

ど「事實は小説よりも奇なり」を地でいってしまったようなものだったと言っているかもしれない。

こうなってくると、都市計画や街並みだけの話にはとどまらなくなってくる。慣れ親しんだ街の風景があれよあれよという間に変ってゆき、ほとんど「何でもあり」的にいろいろなことが起こるといふ状態になってきたとき、そこに暮らしている人々がそれをどのように受けとめ、そういう中で都市に対する人々の表象や記憶がどのように推移してゆくのかということが問題になってくるのである。通常であれば、都市に対する表象や記憶は少しずつ書き換えられてゆくのが普通である。新旧さまざまな建物や事物によって織りなされる都市の景観には、そこに暮らす人々の過去の記憶が A に堆積している。時代の変化の中で古いものが消え、新しいものが作られてゆくにつれて、人々の記憶もまた、自分では気づかないうちに少しずつ書き換えられてゆく。しかしベルリンの場合、本来は長い時間をかけて進んでゆくはずのそんな変化の過程を、短時間にギョウシユク⁵して実現してしまった。昨日まで、皆が何となく共有していた街の表象が、ある日一夜にして、しかも全く予想もつかなかったような形で変貌を遂げてしまうような状況になったとき、人々の生活感覚や環境認識、共同体意識といったものはどのようになってゆくのだろうか、そういう中で文化というものはどのように保存され、変貌し、また新たに形作られてゆくのだろうか。この時期のベルリンは、言ってみれば、6 そういうことを目の当たりにできる巨大な実験場のようなものであった。ベルリンに生活しているわけではない人も含め、多くの人がこの時期のベルリンに関心をもち、目が離せないような感覚になっていたのは、まさに社会における文化の形成や変容の根源に関わるそのような問題を解明するための巨大な実験に立ち会っているような感覚をもっていたがゆえのことだったとすら思われてくる。

この時期のベルリンで都市の表象や記憶に関わるこのような問題意識がいかに尖鋭化^{せんえい}したかということは、一九九〇年代後半から二〇〇〇年代初頭にかけて、ベルリンに関する写真集やDVDなどが大量に作られている状況にあらわれている。その点数の多さ自体にも驚かされるが、特徴的なのは、現在の写真を集めたというだけでない、B な次元が加わったものが大半であるということだ。それもほとんどが、戦後の東西冷戦体制の時代のベルリンに関わるものである。東独時代の旧東ベルリンの街角の写真や映像を集めたり、東で発行された絵葉書を集めたりしたものが多いが、その中でもかなり目立つのは同じ場所

の新旧の写真と比較対照した「昔と今」的な写真集である。一番典型的なのは「壁」をテーマにしたもので、「壁」があった時代の写真とそれが撤去されてからのものとを並べたものを集めたような写真集がいくつも出ている。たしかにポツダム広場に限らず、「壁」が撤去されることでドラスティックに風景が変わってしまった、今ではここに「壁」があったということすら感じられなくなっている場所もたくさんあり、こういうものをみて「昔はこんなだったのか」と驚く人も多いのかもしれない。

しかし考えてみると、これらの「昔と今」の写真の多くは、せいぜい二〇年くらいのスパンでの比較であり、通常であれば、どこかわからないほどに変わってしまうことはまずないような時間の幅である。こういうものが写真集として成り立つということとは、もはや壁がどこを通っていたかということも、人々の日常的な記憶の中からは抜け落ちつつあるということでもある。ベルリンのような状況になった場合、人々の記憶の時間的スパンがいかに短くなってしまうかということを示していると言えるだろう。このような写真集やDVDなどが次々と出されることで、それらは歴史的な記憶として呼び出され、継承されてゆく。さらに言うと、この種の写真集の中には、東西統合後にポツダム広場の工事ははじまってから、そこに次々と高層ビルが建てられてゆく時期に焦点を合わせた定点観測的な写真集などもある。時間的にみれば、さらに短い期間を対象とした「歴史」が描かれているわけであるが、この時期のベルリンでは、ほとんど同時代的な現象ですら、このように次々と「歴史化」されてゆくような状況になっていたのである。

九〇年代後半から二〇〇〇年代初頭にかけて作られた写真集やDVDの中には「東」の人ではなく、東西統合後に関心をもった「西」出身の人が作っているものも少なくない。統合後のこの時期に、とりわけ旧「東」時代を懐かしむような空気が強まり、それが「オスタルギー」という名で呼ばれるような大きなうねりを作り出してゆくこと、そしてその盛り上がりを支えていたのが、実は必ずしも「東」時代を経験した人のノスタルジーではなく、むしろそうではない人々が外から関心を共有するような形で盛り上がっていった部分が大いだが、その背景にあったのは、ベルリンを取り巻く上記のような状況であったのである。

ベルリンをめぐるこのような動きは歴史認識や歴史表象のあり方といった観点からみると非常に興味深い。当時のドキュメンタリー映像などを収めたDVDのようなノンフィクション系のものだけでなく、東ドイツやベルリンのからむフィクション映画

も、この時期、実にたくさん作られている。フィクション映画は作り物であり、歴史的ドキュメントではないので、歴史認識には関係ないと思われてしまいがちだが、「表象」や「記憶」という問題系を介在させることで両者は重なり合ってくる。そういう意味では、ベルリンはまた、映画が都市に関わってゆく関わり方をモサクする⁹という点でも恰好の実験場であったと言つてよい。何しろ、「事實は小説よりも奇なり」を地でいったような、人々の想像力をこえることが次々と起こるのである。現実の世界を背景にしつつ、そこに想像力を働かせることでさまざまなフィクション世界の可能性を切り開こうとしてきた映画制作者にとつてベルリンは願つたり叶つたり¹⁰の場所になったことは想像に難くない。それがベルリンという街に関わる人々の表象や記憶をどのように動かしていったのかということこそが、まさに問われなければならない。

(渡辺裕『まちあるき文化考』による)

問一 傍線部1「未曾有」の読みをひらがなで記せ。問一は解答题紙(その2)を使用。

問二 傍線部2「特殊な状況」とは、どういう意味か。本文の内容に即して最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせ

よ。解答欄番号は

1

- ① ベルリンの壁崩壊の時代を直接には知らない若い世代の人が増えている。
- ② 世界のどの都市も体験したことのないような大改造が推進されている。
- ③ 西ベルリンは体制の異なる東ドイツの中に位置していた。
- ④ 両大戦間には首都として、世界の文化を牽引する都市として機能していた。
- ⑤ 分断されても、統合されることを想定したまち作りが行われていた。

問三 傍線部3「そのような状況」の説明として、本文の内容に即して最適なものを、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。

解答欄番号は 2

- ① 四〇年にわたって分断されていたが、統合が想定されていたため、復元工事は比較的容易に進められた。
- ② 西ベルリンは東ドイツの中に壁に囲まれ存在するという状況におかれていた。
- ③ 中央駅が本来の機能を取り戻し、再開業されるまで十年以上もかかった。
- ④ 長期間の分断によりベルリンは東西それぞれ独自に形づくられたため、都市の統合はいたる所で工事が続く大改造となった。
- ⑤ バスの路線網が整備されたのは、統合後十年以上たってからである。

問四 傍線部4「ポツダム広場」についての説明として、本文の内容に即して最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。

解答欄番号は 3

- ① ひとつのローカル駅になりさがっていた中央駅が本来の機能を取り戻した。
- ② 東西分断後もベルリンの中心的な繁華街の一つだった。
- ③ 東西分断の前から、荒涼な空き地と化していた。
- ④ 統合後の再開発事業により、工事現場を見るための観光が活発化した。
- ⑤ ベルリンの都市改造計画についての展示を行う展示施設が仮設された。

問五 空欄 A に入れる言葉として、本文の内容に即して最適なもの、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解

答欄番号は 4

- ① 重層的
- ② 階層的
- ③ 間欠的
- ④ 幻想的
- ⑤ 総合的

問六 傍線部5「ギョウシユク」を漢字で記せ。問六は解答用紙(その2)を使用。

問七 傍線部6「そういうこと」とはなにを指しているのか。本文の内容に即して最適なもの、次の①～⑤から選び、記号をマ

ークせよ。解答欄番号は 5

- ① 実現不可能に見える改造計画がいかにも実現されるのかを確認できるということ。
- ② 長い期間をかけて行われるべき再開発がごく短期間に起こりえるということ。
- ③ 旧「東」地域の古い街並みに、西資本の大規模な商業施設が突然現れるということ。
- ④ 「事実は小説より奇なり」を地でいくような都市改造が起こるということ。
- ⑤ 急激な都市の変貌がいかにも人々の感覚・意識に影響を与え、文化の形成に反映されていくのかということ。

問八 空欄 B に入れる言葉として本文の内容に即して最適なもの、次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答

欄番号は 6

- ① 商業的
- ② 映像的
- ③ 歴史的
- ④ 日常的
- ⑤ 実験的

問九 傍線部 7「ほとんど同時代的な現象ですら、このように次々と『歴史化』されてゆくような状況」といえないものを次の①～

⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 7

- ① 統合後に、東独時代の旧東ベルリンの街角の写真や映像、東で発行された絵葉書を集めたものが大量に刊行された。
- ② ベルリンに関する写真集やDVDが刊行されることで、ベルリンの短期間における変化が歴史的な記憶として呼び出され、継承されていく。
- ③ ポツダム広場の工事を定点観測した写真集のように、短い期間を対象とした歴史が描かれる。
- ④ 同じ場所の新旧の写真を対照した、ベルリンの「昔と今」的な写真集が次々と刊行される。
- ⑤ 東西統合後、旧「東」地域の古い街並みの中に突如「西」資本の大規模なショッピングモールが建設された。

問十 傍線部 8 「オスタルギー」は「東」を意味する「オスト」と「ノスタルジー」のドイツ語形を重ね合わせた造語であるが、その説

明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 8

① 九〇年代後半から二〇〇〇年代初頭、旧西ドイツを懐かしむ風潮が高まった。

② オスタルギーは、「東」時代を経験していない人々の関心によって盛り上がった部分が大い。

③ 「東」の人によって、九〇年代後半から二〇〇〇年代初頭に、東ドイツに関する写真集やDVDが作られた。

④ オスタルギーは「東」時代を経験した人のノスタルジーである。

⑤ 「西」出身の人は、東西統合後、西ベルリンに焦点をあてて写真集やDVDを作った。

問十一 傍線部 9 「モサク」を漢字で記したものととして最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 9

① 模索

② 模作

③ 模策

④ 摸作

⑤ 摸策

問十二 傍線部10「映画制作者にとって、ベルリンは願ったり叶ったりの場所」とは、どういう意味か、本文の内容に即して最適

なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 10

① 東西統合後、ベルリンは映画制作者に実験場として優遇的に場所を提供した。

② ベルリンは、現実世界でありながら人々の想像力をこえることが次々起る場所である。

③ ベルリンは、常に歴史を感じさせない新鮮さに満ちた都市である。

④ ベルリンの変化は、フィクション映画よりドキュメンタリー映像を撮るのに適していた。

⑤ ベルリンは、十数年にわたる工事によって交通網が整備され、撮影に適した都市である。

問十三 本文の内容と合致しないものを次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 11

① 東西統合後、ベルリンの大規模工事現場を見て回る「工事場観光」が流行した。

② 「ベルリンの壁」が崩壊して十年後には、ベルリンは急激な都市改造により、世界の文化を牽引する都市として、過去の栄華を取り戻した。

③ 東西の境界線がかかってしまっていたポツダム広場は、大工事の嵐の象徴であった。

④ ベルリンは、短期間に集中して行われた都市の大改造によって、文化がどう保存され、新たに形作られてゆくのかを見ることができるところであった。

⑤ 東西統合後に刊行された写真集は、同じ場所を長くても二〇年くらいのスパンで比較したものが多かった。

二 次の文章を読んで後の問に答えよ。

関白秀次生害の後、細川忠興の家に罪蒙るべき事おこれり。その子細は、秀次、当時の大名の財用乏しきには、ひそかに金銀を貸し給ふことあり。これは、人の心をとらんがため、かつは財を利せんがためなりけり。忠興も黄金二百枚を借りてければ、¹かの家の金銀出納のをつかさどれる人、「急ぎかの金返し給ふべし。券契を破り捨て候ふべし。さなからんには、太閤の奉行に券契を出だすべし」とぞ申しける。忠興、「いかにも叶ふべからず。このこと太閤に漏れ聞こえなば、罪科に処せられんこと疑ひなし。いかがすべき」と案じ煩ひ、長臣相集まりて議しけるに、松井佐渡守申しけるは、「某、年頃徳川殿の御内なる本多佐渡守正信と親しく相語らひ候ふ。彼につきて徳川殿を頼み参らせん。徳川殿は、さるたのもしき人にておはしませば、いかでこれほどのことにて、人の家亡びんとするを見捨て給ふことは候ふまじ」と申す。忠興、「我日頃内府と親しくもなし。かかること頼むに便なし。されども、汝正信と親しからんには、試みに計り見よ」といふ。²

松井、本多に、しかじかのこと有りといふ。徳川殿きこしめし、そのまま松井を召され、人をのけて尋ね問はせ給ひ、正信して唐櫃二つ開かせらる。一つに黄金百枚づつを入れられたり。「その黄金の箱に題せし年月を見よ」と仰せあり。正信、「これを考ふるに、二十一年の前、未だ三河に御座ありし時に候ふ」と申す。徳川殿松井に向かはせ給ひ、「およそ金銀は出納の司あることにて、もし人知れず用いんとする時に、我が心に任せ難し。されば、この黄金を貯ふること、⁴かかることを待つに年久し。今その家のために我が年頃の志達しけるこそ嬉しけれ」とて、自らこれを松井に賜ふ。

松井大いに喜び、「かかる有り難き御事こそ候はね。既に亡びんとする家の、かく再び継ぐ⁵」**A** 候ふこと、偏へに君の御恩なり。細川が家の候はん限りは、いかでこの情けを忘れ奉るべき。すみやかに本国に申し下して黄金召し上せ、償ひ奉る**B** にて候ふ」と申す。東照宮聞こしめし、「いやいや、このこと世にもれ聞こえなんには、両家の禍ひにこそあれ。それ故に、かく人知れず使ふべき料のもの取り出だしたれ。ゆめゆめ償はんこと、しかるべからず」と仰せられしかば、松井ことさ⁶らに喜び、「急ぎ帰りてこの由を申し候はん」とて、御前を立ちて出でにけり。

はるか経て、忠興、そのこととなく御館に参り、御対面のついでに正信を呼び出だし、東照宮に向かひて申しけるは、「⁷年頃、忠興が家人に仰せくだされしこと、謹んで承り候ふ。⁸何事のおはしますべきには候はねども、もし御家にご有らん時は、必ず君の御ため、国をも身をも捨てて、このたびの御情けに報じ奉らんずるにて候ふ。さりながら、忠興常に伺候仕りて候はんには、本意遂げんこと叶ふべからず。これよりまたものとごとく、うとうとしくこそ候ふぬ。」とて、御暇申して出でぬ。

〔常山紀談〕による)

(注)

* 関白秀次：豊臣秀次。秀吉の甥。関白となったが、秀吉との関係が悪化し、文禄四年(一五九五)に切腹させられ、妻子や近臣も処刑された。

* 細川忠興：安土桃山・江戸時代初期の武将。細川藤孝(幽齋)の子で、織田信長・豊臣秀吉のもとで戦功があった。

* 太閤：豊臣秀吉のこと。

* 徳川殿：徳川家康のこと。

* 内府：徳川家康のこと。

* 三河：三河国(愛知県東部)。徳川家康は、三河国出身であった。

* 東照宮：徳川家康のこと。

問一 傍線部1「かの家」とはどの家を指すか。最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。解答欄番号は 12

- ① 関白秀次の家
- ② 細川忠興の家
- ③ 太閤秀吉の家
- ④ 松井佐渡守の家
- ⑤ 徳川家康の家

問二 傍線部2「かかること」は、どのような意味で用いられているか。最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。

解答欄番号は 13

- ① 事実を隠して無罪をかちとるための謀議
- ② 家臣としての厚遇を求めると大胆な要求
- ③ 極秘の困難な課題に関する教示の依頼
- ④ 多額の借金がからんだめんどうな相談
- ⑤ 緊密な同盟関係を求める突然の要請

問三 傍線部3「人をのけて」とは、どのような様子を描いているか。最適なものをお次の①～⑤から選り、記号をマークせよ。解

答欄番号は 14

- ① 親密さを装うために、疎遠な人は遠くへ追いやった
- ② 機密を守るために、その場に必要な者以外は席を外させた
- ③ 多額の金を扱うので、警戒するために怪しい者を追い出した
- ④ あまり親しくない松井佐渡守と会うので、警護の者をひそかにしのばせた
- ⑤ 大事な相談なので、いったん呼び入れた松井佐渡守を別の部屋に案内した

問四 傍線部4「かかることを待つに年久し」とは、どういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解

答欄番号は **15**

- ① このような投機の絶好のチャンスを、長い間待ち続けていたのです
- ② このような内密の出費を必要とする場合に備えて、長い間貯えていたのです
- ③ この金を使うことは、一度はあきらめたのですが、生かしてみたいと長い間願っていたのです
- ④ 長い間行方不明になっていた金を、こんな形で発見できたのはありがたいことです
- ⑤ この金を私の裁量で使えるようにならないかと、長い間期待していたのです

問五 傍線部5「既に亡びんとする家」とは、どの家を指しているか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解

答欄番号は **16**

- ① 一度は亡びてしまった豊臣秀次の家
- ② いずれは亡びてしまうであろう豊臣秀吉の家
- ③ 亡びてしまうことなどあり得ない徳川家康の家
- ④ 今にも亡びてしまいそうになっている細川忠興の家
- ⑤ もはや亡びてしまってもおかしくない松井佐渡守の家

問六 傍線部6「ゆめゆめ償はんこと、しかるべからず」とは、どういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **17**

- ① まさか借金を返済しようと本気でお考えではありませんまい
- ② 遠い将来の希望としても、弁償などは無理なことでしょう
- ③ この金を返そうなどとは決してなさらないでください
- ④ どれほどお詫びしていただいても意味がありません
- ⑤ 代償を払おうなどというお考えが少しでもあるのでしょうか

問七 傍線部7「年頃、忠興が家人に仰せくだされしこと」とは、どのようなことを指すか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **18**

- ① かつて、細川忠興が松井佐渡守に命令していたこと
- ② 日頃から、徳川殿が本多正信におっしゃっていること
- ③ 何年もかけて、徳川殿が家人を通じて細川忠興に伝えていたこと
- ④ 先年、細川忠興が本多正信を通じて徳川殿にお願したこと
- ⑤ 以前、徳川殿が松井佐渡守におっしゃってくださったこと

問八 傍線部8「何事のおはしますべきには候はねども」とは、どういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **19**

- ① 徳川殿のもとにどのような重要人物がいらつしやるのか存じませんが
- ② 徳川殿がどうすべきだなどと指図するつもりは全くございませんが
- ③ 徳川殿がどちらにいらつしやるおつもりか、わかりませんが
- ④ 徳川殿の将来にどんなことがおきるか、予想はできませんが
- ⑤ 徳川殿の御家中に深刻な問題など起きるはずありませんが

問九

空欄 **A** ・

B ・

C

には、助動詞「べし」の活用形が入る。どのような形で入れるのがよいか。最適

な組み合わせを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **20**

- ① Aーべく Bーべき Cーべけれ
- ② Aーべく Bーべき Cーべし
- ③ Aーべく Bーべし Cーべき
- ④ Aーべき Bーべく Cーべけれ
- ⑤ Aーべき Bーべく Cーべし

問十 この文章の内容に合っているものを、次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **21**

- ① 徳川家康は、本多正信の願いを聞き入れ、正信が細川忠興に黄金を手渡すことを承諾した。
- ② 徳川家康は、細川忠興が借金の申し込みをしてくることを以前から予期し、黄金を用意していた。
- ③ 細川忠興は、関白秀次から借りた金を返せず、さして親しくもない徳川家康に助けってもらうこととなった。
- ④ 細川忠興は、徳川家康から借りた黄金二百枚を返すことができなかつたために、家康に臣従を誓うこととなった。
- ⑤ 松井佐渡守は、徳川家康の寛大な処置に感動し、細川家の家臣でありながら、ひそかに徳川家に仕えることになった。



